



JARA NEWS

July 2018, No. 125

from
Japan Automotive Recyclers Alliance
www.jara.co.jp

Published by JARA Corporation
Tokyo Head Office: Shinawa Bldg. 1-2-2-7F,
Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo JAPAN 103-0027
Phone: +81 3 3548 3010 / Fax: +81 3 3231 4690



ELV機構、リ協が組織統合へ、“一枚岩の業界”に向けて 役員26人体制 19年3月発表

「一枚岩の業界に向けて」一。日本ELVリサイクル機構（ELV機構、酒井康雄代表理事）と日本自動車リサイクル部品協議会（リ協、栗原裕之代表理事）との組織統合が本格的に動き出した。ELV機構が13日に開いた「2018年度定期社員総会」で、リ協の役員13人を理事として迎え入れ、全26人の役員体制とすることを審議、了承された。自動車産業が直面する100年に1度の大変革期は、早晩、自動車リサイクル業界に波及する。リサイクル業界が持続的な発展と成長を続けるためにも、両団体を一本化して業界を代表する団体を組織することが待たれていた。今後、協議を重ねて19年3月に新体制を発表する予定だ。

■解体業と部品流通業の2団体

ELV機構は、自動車リサイクルに携わる事業者の全国組織として2000年4月に「日本ELVリサイクル推進協議会」が発足。自動車リサイクル法施行の05年4月に現在名に改称した。各都道府県の自動車リサイクル関連の協同組合や協議会などの地域団体が構成される。リサイクル業界の社会的地位向上や自動車リサイクル士制度の認定事業など幅広い事業活動を展開する。

リ協は、リユース部品とリビルド部品の流通に携わる全国の事業者団体組織として、95年11月に日本自動車リサイクル部品販売団体協議会を発足。10年11月に現在の名称に改称した。現在、全国の11団体505社で構成される。リサイクル部品流通の活性化や利用

促進などを活動の中心としている。

■環境の変化に対応するために

両団体の合流は行政やリサイクル業界の要望で、業界一本化の話は7、8年前から存在していた。

一口に「自動車リサイクル業」「自動車解体業」などといわれるが、鉄スクラップなどの素材販売を中心にしたところ、リ協加盟事業者に代表される中古部品販売にウエートを置くところなどと業態が多様で、しかも100人を超える従業員規模の事業者から家業的事業者までと事業規模にも開きがある。このため、両団体に所属する事業者を一つにまとめ上げるには、乗り越えなければならないハードルがいくつも立ちわだかまっていた。

業界一本化の議論が加速したのは、使用済み自動車の仕入れ価格の高止まりやリサイクル部品の輸送費用の高騰、不安定な素材相場など、リサイクル業界を取り巻く課題は解決されないからだ。また、中長期的には、使用済み車の引取台数減少や電動車に代表されるリサイクル技術の情報入手と技術力向上など大きく環境が変化する。

さらに、100年に一度の大変革期が自動車産業に押し寄せる中で「リサイクル業界が一つにまとまらなると、情報を入手したり分析したり、発信していくこと十分にできなくなる。次世代自動車の登場が時代の要請ならば適切に処理することも社会の要請。それに適する体制づくりをやっていかなければならない」（酒井代表理事）という危機感もある。

■会員拡大で存在感を

ELV機構は18年度の事業計画として「自動車リサイクル業界一体化」を掲げた。リ協との組織統合合意を受け、会員の拡大、組織力強化に向けた活動に着手する。酒井代表理事は社員総会で「自動車産業が大きく変化する中で、リサイクル業界、そしてELV機構も変わっていく必要がある」と指摘。今年度はリ協との組織統合を強力に推し進めていく意向を示した。

NPO JARA総会、外国人人材育成事業を実施 高橋理事長ら再任

NPO法人全日本自動車リサイクル事業連合（NPO JARA）はこのほど、東京都中央区で「第14回通常総会」を開催した。10月下旬にインドで開催される「第11回アジア自動車環境フォーラム（AAEF）2018」の開催支援などを柱とする2018年度事業計画案などを審議し、満場一致で可決された。任期満了に伴う役員改選では、高橋敏理事長以下、全役員が再任された。

18年度の事業計画では、AAEF2018の開催支援をはじめ、自動車産業英語セミナーの実施や外国人人材研究事業などを実施する。特に、海外連携はAAEFの場を通じてアジア各国との連携を緊密にする。さらに、海外の大学との連携を通じて、外国人の人材育成プログラムの実施を検討するなど、自動車リサイクル業界の人材不足問題に対して、様々な角度から取り組んでいく考えを示した。

高橋理事長は「JARAを設立し、海外の団体と提携して、海外の不法投棄車両調査など活動してきたことで、各方面から信頼を得られるようになった。現在、多くの日本車が海外を走っている。国内外で資源と環境に関する問題について、会員同士で協力しながら対応していきたい」と新年度の抱負を述べた。

役員体制は次の通り（敬称略）。

▽理事長＝高橋敏▽副理事長＝郷古実▽専務理事＝北島宗尚▽常務理事＝服部厚司▽理事＝松原正和、鴨下治郎、千葉菊雄、伊東正展、小野朝浩、近松利浩、田淵洋一▽監事＝高松右門、齊藤貢

（日刊自動車新聞6月14日）



総会後にELV機構の理事を紹介



合流に向けて大きな一歩を踏み出した



組織統合に向けた協議を迅速に進めるため、執行部として26人の理事のうち、ELV機構6人とリ協6人の全12人が常任役員を兼務することも決めた。

また、組織統合に向けた事業基盤を強固にするため、全国の都道府県支部制の導入を決めた。支部制の導入により、すべての解体事業者が平等に参加できる仕組みを構築する。現在、ELV機構に加盟していないのは9府県となっており、今後、空白県を解消し、全都道府県での体制構築を目指す。現在、ELV機構の会員は500社を下回っているのが実情。自動車リサイクル業界を代表する団体として、目標会員数は1千社を掲げた。

■ 早期の合意形成を

20年の自動車リサイクル法見直しの議論やリサイクル技術の高度化、リサイクル部品の活用促進と

対応する課題は山積している。足元では、中国の廃棄物輸入規制の影響が懸念材料として浮上してきた。来春には臨時総会を開催し、新体制を発足させる計画だ。いよいよ解体業と流通業の枠組みを超えた大同団結が実現することになるが、両方で意見を一致しなければならないことは多く、残された時間で早期の合意形成を期待したい。

(日刊自動車新聞 6月21日)

**JARAグループ・(株)JARA主催で
導入研修会開催**

JARAグループ・(株)JARA主催の第13回導入研修会が5月24から26日の3日間、愛知県岡崎市の愛知県青年の家で開催され、JARA会員と提携リビルトメーカーなど24社39名の研修生が参加した。

開会式でJARAグループの土門志吉会長は「今回の参加者は、携わる業務も違えば、入社間もない方、ベテランまで様々な方に参加いただいている。より良い研修会とするためにも、固定観念は捨て新しい目線で取り組んでほしい」と研修生を激励。続いて(株)JARAの北島宗尚社長は「内容も従来から多少変えているが、本質や伝えたいことは変わっていない。素の自分となり、3日間を素敵な時間とできるかどうかは自分たち次第だと肝に銘じて臨んでほしい」と挨拶した。

本研修会は、これまで開催されてきた「基礎研修会」から名称変更されたもの。今回は基礎研修会の



流れを汲みながらも、外部講師を招いたマナー研修や自動車基礎知識セミナーといった知識導入部分において、より一層カリキュラムの充実を図るものとなった。研修生は、社会人としてのマナーや自動車リサイクラーとしての心得について団体行動を通じて学び、また自己分析の中から課題を見つけ改善へつなげるプロセスを学んだ。

(株)JARA広報

**3 R 推進協
飛田テックが事例説明**

優秀 3 R 推進活動を発表

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会(3R推進協議会)は5日、機械振興会館(東京都港区)で「2018年度優秀3R推進活動発表会」を開催した。「2017年度リデュース・リユ-

リサイクル推進功労者等表彰」で環境大臣賞を受賞した飛田テック(飛田剛一社長、新潟県上越市)などが取り組み事例を発表した。

飛田テックは「使用済み自動車における3Rの取り組み」について講演した。同社はシュレッターダスト(ASR)を生じさせない「全部再資源化」に注力しており、入庫した自動車のほぼ100%を全部再資源化している点が評価され、受賞に至った。酒井悟管理部長は「ASRを処理する施設が不足していて、遠方に運ぶなど手間がかかっている」と業界の背景を説明。全部再資源化では鉄スクラップなどを電炉で溶解し鉄筋に再加工することで、自動車リサイクル率は99%を超えている状況を解説した。同社は「優秀全部再資源化事業所」として12年連続で全国トップ10に入った。今後も全部再資源化

を積極的に推進、資源の「地産地消」を促進していく方針だ。

(日刊自動車新聞 6月7日)

**環境省、軽量化・高強度目指す
ナノセルロース自動車
プロジェクトの成果報告会**

環境省は6日、植物由来の次世代素材「セルロースナノファイバー(CNF)」を活用した軽量・高強度な自動車部品の実現に取り組む「NCV(ナノセルロース自動車)プロジェクト」の成果報告会を都内で開催した。CNFを材料に使用して試作した外装部品などをトヨタ「86」に装着して展示、自動車分野におけるCNF活用の可能性を具体的に示した。今後、研究・開発成果を結集したコンセプトカーを製作、来秋の「東京モーターショー」で公開する。

試作部品は金沢工業大学がボンネット、利昌工業がトランクリッド、アイシン精機が吸気マニホールド、トヨタ紡織がドアトリムをそれぞれ手がけた。CNFを樹脂材料に配合した素材で部品をつくり、生産性や強度、耐熱性など検証、性能・品質の改善に取り組んだ。

CNF研究の第一人者で、同プロジェクトの代表事業機関を務める京都大学生存圏研究所の矢野浩之教

授は「2000年頃に研究を本格化したCNFがついに車の部品として形になった。今後は植物由来で地球環境に優しいCNFの特徴をいかした車づくりをコンセプト車で発信する」と述べ、CNF製部品の実用化に期待を示した。

NCVプロジェクトは2016年10月にスタート。自動車部品のサプライヤーや研究機関、大学など21機関が参加している。

(日刊自動車新聞 6月7日)



試作部品を装着した「86」
コンセプト車製作はトヨタカスタマイジング&ディ
ベロップメントが担当

CO2削減数値(SPLシステム)

リユースパーツ使用によるCO2削減効果
参考値 平成30年05月

2,302t

※一般、中・大型含む車を修理する際、新品部品を使用して修理する場合に出るCO2排出量とリサイクル部品を使用して修理する場合のCO2排出量の差がCO2削減数値になります。

一般社団法人日本自動車リサイクル部品協議会と早稲田大学環境総合研究センターがLCA(ライフ・サイクル・アセスメント)の考え方に基づき共同開発した「グリーンポイントシステム」より参照。



We Save You Fuel
Achieving a Low-Carbon Society

Dismantling process flow chart

How the Car Dismantling machine works



The Evolution of car dismantling industry by Kobelco

Four times* the vehicle dismantling capability compared with hand dismantling.

*In one day (Kobelco test figures)

15 vehicles > One operative working by hand.

60 vehicles > One operative in a Kobelco Car Dismantling machine.

Improved recovery rate of rare earth metals

Engine, Catalytic Agents, Body Steel, Seats, Windows, Wheels/Tyres

Suspension, Radiator, Brakes, Front & Rear Bumpers, Transmission, Doors, Harnesses

The machine's special attachment is designed to strip materials from End-of-Life Vehicles (ELV) safely and thoroughly

Separation of these valuable materials is quicker and easier and can be performed with one Kobelco machine.



コベルコ建機株式会社 www.kobelco-kenki.co.jp/	For Japan	成都神鋼工程机械(集团)有限公司 www.kobelco-jianji.com/	For China
(주)삼정건설기계 www.samjung-kenki.co.kr/	For Korea	KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY U.S.A. INC. www.kobelco-usa.com/	For North America
KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY AUSTRALIA PTY LTD www.kobelco.com.au/	For Australia	KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY EUROPE B.V. www.kobelco-europe.com/	For Europe
FAIR FRIEND ENTERPRISE CO.,LTD. www.ffg-tw.com/	For Taiwan		